

平成 25 年度「SciREX 政策形成実践プログラム」について（案）

1. 背景・経緯

- 「SciREX 政策形成実践プログラム」は、平成 23 年度から開始された「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」の既存の各種プログラム（基盤的研究・人材育成拠点の形成、公募型研究開発プログラム、政策課題対応型調査研究、データ・情報基盤の構築）の取組を一体的に牽引・主導するとともに、得られた成果を政策形成の実践に生かすことを目指して、25 年度の新規プログラムとして導入された（予算額約 1.3 億円）。
- その後、26 年度概算要求では、「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」について、基盤的研究・人材育成拠点の形成を拡充して新たに中核的拠点機能を整備することとされており、「SciREX 政策形成実践プログラム」はその前段階のプログラムとの位置づけで 25 年度限りのものとなったため、25 年度の「実践プログラム」と 26 年度以降の「中核的拠点機能の整備」との関係を整理する必要がある。

2. 平成 25 年度の実施内容

- 実践プログラムの具体的内容としては、(1) 政策課題「予知・予防を重視した健康長寿社会の実現」を例とした、社会的・経済的影響分析の試行による政策オプション素案（プロトタイプ）の作成、及び (2) 政策課題の設定や政策形成プロセスの在り方の検討を含めた政策オプション作成過程の試行、の二本立てとする。
 - (1) 政策課題「予知・予防を重視した健康長寿社会の実現」を例とした社会的・経済的影響分析の試行について
 - ・ 政策課題「予知・予防を重視した健康長寿社会の実現」に関して、目指すべき 2030 年の社会像（目標、指標）を設定。
 - ・ 糖尿病の予知・予防を具体的な作業対象とした政策オプション作成を試行することにより、設定された社会像を実現するために必要となる諸方策とそれらによる社会的・経済的インパクトの構造を明らかにすると

もに、その根拠となるエビデンスや分析手法を特定。

- ・政策オプション素案（プロトタイプ）の不確実性や将来の発展可能性を明らかにした上で、（必要となる諸方策の組み合わせによる複数の）シナリオを作成するとともに、それに基づくロードマップを作成。

(2) 政策課題の設定等を含めた政策オプション作成過程の試行について

- ・我が国の現状を俯瞰するために必要なデータ項目を整理し、政策課題の設定手法を検討。
- ・設定した各政策課題に対して、課題解決に向けた実行可能な政策手段の組合せの概要（政策シナリオ）を作成。
- ・一般社会との間での合意形成を促進する方法や多様な関係者間での合理的な政策形成プロセス等を構想。

3. 実践プログラムの成果の活用方策

- (1) については、26 年度以降に中核的拠点で作成すべきアウトプットとしての政策オプションの先行例となるとともに、社会的・経済的影響分析（糖尿病の予知・予防を具体的な作業対象とした政策オプション作成）を具体的に実践した手法・ノウハウそのものが中核的拠点にとって貴重な知見となることが期待される。(2) については、政策課題の設定から一連の政策オプション作成過程を試行することで、26 年度以降に中核的拠点が活動を円滑かつ迅速に開始する上での参考・指針となることが期待される。
- また、(1) (2) とともに、今後予想される第 5 期科学技術基本計画の策定や 27 年度概算要求等を見据えて、「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」そのものの意義・効果等について政府部内で共通理解を一層図っていく際に活用する必要がある。
- さらに、(1) (2) とともに、中核的拠点が本格的に活動を開始する際、政策形成プロセスに関与すべき関係各府省や企業・独法・大学等幅広い関係者に理解と参画を求める際のツールとしての活用も大いに期待される。

4. 想定される今後のスケジュール

- 平成 25 年 12 月 「政策課題の設定等を含めた政策オプション作成過程の試行」委託契約
- 26 年 3 月 実践プログラムの委託事業 2 件の成果提出
- 4 月～ （予算成立後）中核的拠点の選考・決定
- 6 月頃 骨太方針、成長戦略等？
- 8 月 27 年度概算要求
- 秋以降 政府部内で第 5 期科学技術基本計画の策定に向けた検討が本格化

